

櫻 工

理工学部長竹村勘次先生を偲ぶ	植地伊三郎	1
竹村先生への追憶	古田重二良	2
竹村さんの思い出あれこれ	笠原 敏郎	3
故竹村先生を語る座談会		4
思い出のアルバム (其の1)		11
石綿・アセント管の併進係数について	谷口 清治	12
座談会「建設業を中心として」		14
日大対企業学生ラグビー戦		21
支部だより		
慶応義塾支部		
校友会だより		
十年会創立二十周年記念集会		
建築17周年記念便り		
津巴冠婚大慶り		22
思い出のアルバム (其の2)		
あとがき		24

第4号
1956

桜 工

1 9 5 6

VOL. 2 NO. 4

日本大学工科校友会

日本大学工科校友会

編集委員会

委員長 秋 保 実

委員幹事 亀 井 幸次郎

委 員 伊 藤 眞 治

〃 西 彪 彦

〃 大 野 弘 道

〃 穴 沢 一 郎

“前工学部長

竹村勸悉先生をしのぶ”

工学部長 横 地 伊 三 郎

竹村先生は寔に寡言にして思慮実行の先生で、学者としてまた教育者として最後まで教壇に立ち、
瘴れるまで眩に殉じられたのであります。此の教育についての情熱と学生を愛する温情とは洵に千載
に亘り範とするに充分であると私は常に考えて居りました。

また先生は工業学園の生みの親とも云うべく、高等工学校の機械科の科長としてその興隆発展に盡
瘁し、工学部の新設せらるや佐野工学部長を中心とする幹部教授として機械工学科の拡充整備に努力
せられ、戦争中は工学部長の要眩にあつて教育と研究とを通じて貢献せられたのであります。終戦後
は先生の御指示により新制大学への切換へ、大学院の設置等々すべて先生の御指示によらざるものは
なく、あの混乱期を乗越へて工学部の今日あるは寔に先生の御力とも云うべく、私は先生の此の御功
の時まことに先生は工業学園のために生れ工業学園のために一生を畢られたと、深き感激を又、その
績を考え高邁なる卓見に対し敬意と尊敬とを心から捧げるものであります。私は十有餘年毎日隣の部
屋で先生の御声呟に接して居たのであります、今も猶隣室の電話のベルが鳴る時は先生が応答して
居られる様な錯覚を持つ時さえあります。私は今も猶故人とは考えて居ないのでありまして、先生の
御心に添う様にとそれのみ毎日思いつゞけて居ります。 (56, 2, 10)

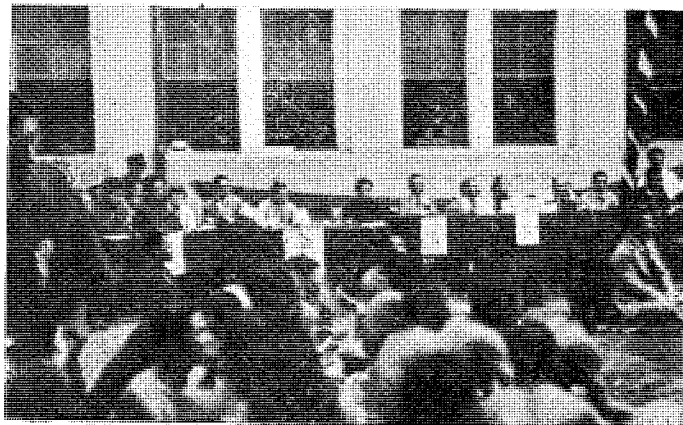
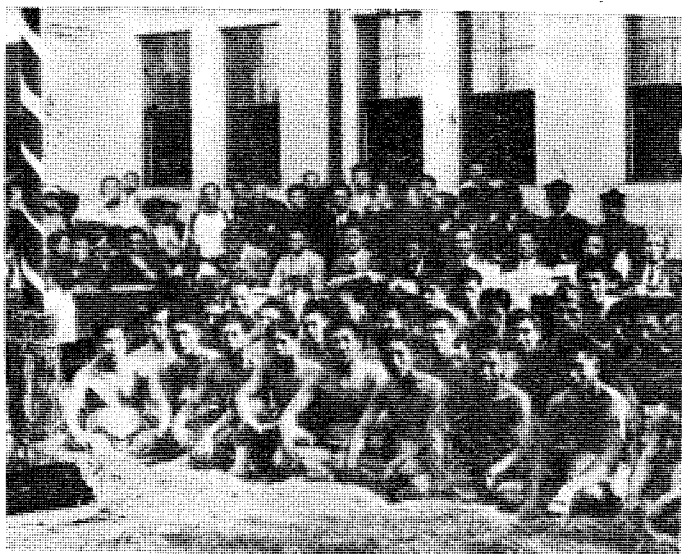
の上、体育行事の附帯施設としてのテントにしてはとの意見を述べておいたが、去る一月二十八日に見事なテントが完成し、たゞちに仮納付を終つた。

津田沼校舎の体育施設はひとり短大工科に限らず、工学部各本科の体育行事にも喜んで利用してもらつてもりがあるので、このたびの記念品は好箇のものとして広く活用されるであらう。学生会の御好意に対して感謝に堪えない次才である。

『思い出のアルバム』

その2 才一回の工学祭の時余興としての相撲大会の記念写真であるから、いまから約二十数年のことである。工学部本館中庭（現在は大山先生自慢の電気の高圧実験室のあるところ。）に土俵を設けたもので中央に工学祭会長である故口谷学監が、取組をじ一つと見守つて居る。この時、映画の俳優やラジオの声優としてならしている岸井君も四本柱に腰を下していたことを記憶している。今は、それぞれの方面で社会人として立派に活躍しておられる当時の代表力士達の勇しい姿には、思わず微笑を禁じ得ないものがある。

(KK生)



あとがき

昭和三十年度最後の号を校了してほつとしました。本号は囊に物故せられました名誉教授竹村勘忍先生の追悼号として企画致しました。理事長先生を始めとし学部長先生、笠原先生から懇篤な追悼文を戴きました事は誠に感激に堪えません。又竹村先生を語る座談会には創立以来から大学院在學生に到るまでの直接先生から教へを受けた方々に、御参集を願いました。御多忙中にも抱らず種々興味深いお話を、被露されて先生の姿を浮彫りの様に書き出すことが出来ました。誌上より厚く御礼申します。今一つの座談会は今回は土木

建築関係で夫々独得の部門に活躍されて居る方々に、御話をして戴きました。この様な企画は逐次各部門に及ぶ様押し進める計画であります。明年度は四回発行即ち季刊とする事にして居ります。今後内容が更に充実されれば頁数も増して行きたいと考えて居ります。どしどし御投稿下さる様御願ひ申します。

本号には珍らしい写真を載せました。次号からは本会所蔵の古い写真を載せて行きますから、在りし日の学生時代の追憶の糸口として下さい。尙ごんなのは是非クラスメートに見せてやり度い寫真だ等と御考へになりましたら、どしどし御貸し下さい。特集が出来る様に寫真が集

まればグラビヤ頁も増して行き度いものです。こういつた雑誌はマンネリズムになり易いものです。毎号新鮮味を持たせる様企画致し度いと考へて居りますから御気付きの点を御指摘下さいませよう御願ひ申します。

(S・S生)

桜 工 第4号

昭和31年3月29日 印刷

昭和31年4月1日 発行

編集人 杉 村 俊 一

発行人 高 木 政 司

東京都北区中十条3ノ23

印刷所 ジャーナル社印刷所

電話(91)2124番

東京都千代田区神田駿河台1ノ8

発行所 日本大学工科校友会

電話東京(29)7711代表・9番

振替口座東京162710番